

## 5-8 子ども同士の活動の指導：人とかかわる力を育てるための活動

人とかかわる力は、他者に対して信頼感がなければ発達しません。幼稚園では、ゲームや集団遊びをしたり、砂場という同じ場で遊んだり、遊びや生活の中で協力や相談する場面に直面したりしながら、友達との信頼関係を築いていきます。この信頼関係は、友達と共感したり、相手を思いやったりする関係につながり、コミュニケーション能力としての人とかかわる力を育てていくのです。

### ゲーム・集団遊び

子どもにとってゲーム遊びや集団遊びは、遊びを通して人とかかわる楽しさや遊びを進める際のルールを学ぶ活動です。友達と一緒に遊ぶ体験は、コミュニケーションや遊びのルールの必要性を実感させていきます。遊びの内容により、構成人数は2人から10人以上と幅広く遊べますが、自分たちだけで遊べるようになるには、あまり多くないほうがよいでしょう。遊びは、教師や他の大人から子どもへと伝えられる場合もありますが、同年齢の子ども同士や、異年齢との遊びの中で伝えられることも多くあります。遊びによっては、相手の動きに自分の動きを合わせたり、逃げる、追いかけるなどの楽しさや面白さを味わったりしながら、遊びの中での人とのかかわり方を、身体全体を動かして体験していきます。

#### 教育的意義

- ・ 多くの友達と遊びの場やルールを共有することを通して、人とかかわる楽しさや面白さを知る。
- ・ 逃げる、追いかける、交代する、競争するなど、精いっぱい力を出し切って身体を動かす楽しさを味わう。
- ・ 相手の動きに合わせてたり、自分の身体の動きを調整したり、間合いや相手の呼吸を感じたりしながら、コミュニケーションに必要な能力を体得する。
- ・ 遊びの中で自分の考えを言ったり、自分の思い通りにならないことに直面したりして、自分の気持ちを統制することを学ぶ。
- ・ 皆で力を合わせて楽しい遊びを進めていくことに、満足感や成就感を味わう。
- ・ 遊びに必要な言葉のやり取りを楽しみながら、言葉の意味や使い方を知る。
- ・ 教師や友達とのスキンシップが遊びを通して自然に行われ、親しみやつながりが深まる。
- ・ 遊びに必要なルールを知り、守って遊ぶことの面白さや楽しさ、大切さを知るとともに、ルールが守られないときには遊びが成立しないことを理解する。
- ・ 遊びの中で、偶然性と規則性の組み合わせの面白さを味わうことで、遊びを創り出していく楽しさを知る。

## ゲーム遊び・集団遊びの展開

ジャンケン遊びは、偶然性とスリルに満ちています。

石、はさみ、紙の関係で、お互いに勝ったり負けたりします。

これら3つの関係性が理解され、遊びに使われて、その面白さが分かるには、4歳以上の遊びと考えてよいでしょう。

ジャンケンは一対一だけではなく、一人対複数でもできます。

ドンジャンケンゲームの基本のルールは、同時に両端からスタートし、出会ったところでじゃんけんをし、勝ったほうが先に進み、負けたほうはスタートからやり直すことです。

そのときの道は、カラーフープをつなげたり、線で渦巻きを書いたりして、様々に工夫できます。

ジャンケンの勝ち負けに素早く反応して、機敏に行動する楽しさも味わっています。ジャンケンのルールは、繰り返し遊ぶ中で身につけていきます。

伝承的な遊びの「はないちもんめ」を楽しんでいます。

2つの組に分かれて、歌いながら言葉をやり取りして、指名された2人がジャンケンをし、負けた子どもが勝った組に入れられて人数を増やしていきます。

同じ組の子どもが手をつないで相手に迫ったり、後ずさりしたり、相手の要求に応じて、声を合わせてやり返す面白さがあります。

ジャンケンの相手に指名されるスリルや、ジャンケンの勝ち負けも遊びのアクセントになっています。

「かごめ、かごめ～」と歌いながら手をつないで、鬼の周りを回ります。

「後ろの正面だあれ？」と歌い終わったときに動きを止め、鬼は真後ろの子どもが誰だかを当てます。

当てられた子どもが今度は鬼になって、同じように遊びます。

雨の日の室内で、「ロンドン橋落ちた」をして遊んでいます。

橋になる子どもが2人で、手をつないで橋を作ります。他の子どもたちは、歌いながら橋の下をくぐりぬけて行きます。

歌い終わった時に橋を落として、くぐり抜けて行く子どもを捕まえます。捕まった子どもは橋になって、どんどん橋が増えていきます。

## 留意点

- ・ 子どもの年齢に応じて、単純なルールの遊びから始めましょう。歌、動きとも、繰り返しの多い遊びがよいでしょう。
- ・ 始めからルールを強要せず、遊びが行き詰ったときに、ルールの必要性に気づくようにしていきましょう。
- ・ 次第に複雑なルールにしていったり、構成人数を増やしていったりして、遊びに楽しさや変化をもたせていくことも大切です。
- ・ 遊びのルールを守って進めるためには、自分のわがままが通らないことや、思い通りにならないこともあるという経験を、子ども同士のかかわりの中で体験させていきましょう。
- ・ 幼児と一緒に、遊びのルールを考えたり、決めたりする機会を作っていくことも大切です。自分たちで考えたり決めたりしたルールですすめていく遊びは、子どもたちにとって魅力的な遊びになります。
- ・ 集団での遊びの場づくりは、夢中になっても危険の無いように、周囲を整備しておきましょう。

## 活動の応用またはヒント

- ・ 同じ遊びでも、少人数で遊ぶ場合と多人数で遊ぶ場合では、楽しさの質やルールも変わっていくことを知らせて、その時に応じた面白さや楽しさを味わいながら進めていけるようにしましょう。
- ・ 経験した遊びは、園生活の中だけにとどまらず、園外でいろいろな場で再現できることを伝えていきましょう。
- ・ 既成の遊びを変化させながら、自分たちの歌を作って、替え歌遊びのようにしてもよいでしょう。
- ・ 集団での遊びやゲームは、子ども同士で遊びを進めたり、伝え合ったり出来ることから、年少の子どもを入れて一緒に遊ぶことができます。
- ・ 教師と子どもが対面でジャンケンをするような場面は、その子どもがジャンケンを理解しているかどうか確認する機会として利用できます。
- ・ その地域で子どもたちに伝えられている遊び(伝承遊び)を教師がとりあげて再現し、活動のひとつとするのもよいでしょう。

## 砂場遊び

砂や土は、子どもにとって身近な自然物であり、好きなだけ自分で集めて自分のものにすることができます。また、砂や土は湿り具合によって、自由に形を作ったり、何度も作りかえたりすることができます。

砂場では、砂だらけになりながら勢いよく山のトンネルを掘ったり、木片の車を手に持って砂場の中を走らせたり、つるつる光る泥だんごを作りながら友達にコツを教えたりするなど、様々な子どもの姿が見られます。

砂場で友達と遊ぶようになると、アイデアを出し合って、より高い山やより魅力的なものを作ろうとします。主張がぶつかり合ったり、1人の意見が強すぎて不満が出たりして、いざこざも生じますが、子どもが意見を調整しようと試み、時には教師が援助して、友達と意見を伝え合う過程が大切です。また、友達と工夫して遊ぶ面白さや達成感を体験することを通して、友達と一緒に協力してダイナミックに遊びが展開していきます。

### 教育的意義

- ・ 砂や土は扱い方によって自由に形を変えることができるので、イメージが広がりやすく、工夫や試行錯誤を通して創造力が育まれる。
- ・ 砂場遊びの中に、砂・土・水の感触を楽しむと共にその性質を知るきっかけがあり、様々な科学的興味・関心を導き出す。
- ・ 砂場で使用する遊具や、自分や友達が作ったものの数や形状から、数量や図形への関心が生まれる。
- ・ 山やダム、泥だんごなどを熱心に根気強く作り上げることによって、満足感と達成感を味わうことができる。
- ・ みんなで役割を決めて遊びを展開したり、協力して穴を掘ったり、山を作ったりして遊びを進めることによって、楽しみや喜びを友達と共有することができる。
- ・ 遊びの場や遊具の取り合い、砂の盛り上げ方や水の入れ方などをめぐっていざこざも見られるが、その問題を解決しようと調整する中で、協調性が育まれる。
- ・ 砂場は、ただそこにいるだけでも、黙々と作業していても、活動的に動いていてもよい遊び場であるため、受容的で、包容力のある居場所として、精神的安定感をもたらす。

## 砂場で遊ぶ

大きな容器に砂や土と水を入れれば、どろんこ遊びが始まります。

「わー、気持ちいい！」「チョコレートみたい」  
「あ、いいこと考えた！おだんごやさんになるっと」どろんこ遊びから、だんご作り、さらにお店やさんごっこへも発展します。

砂を集めて山を作ります。大きな山を作るときには、シャベルを使って、たくさんの砂を運びます。

山をしっかり固めないと、トンネルを掘ったとき、すぐに壊れてしまうのです。

山ができると、次はトンネルを掘ります。山が崩れないように気をつけて、素手でどんどん掘っていきます。

トンネルが繋がったら、山の中で友だちと握手ができます。

もっとたくさん水が流れるように、スコップで川を作りました。

靴を脱いで川の中に入り、水の流れを足で感じ取っています。

流れて来た水をせきとめようと試している子どももいます。

「初めは土山のどろんこ、そのあと土をふりかけて、最後は白砂」と、泥だんごを作るには、どここの土や砂がよいかをよく知っています。

土をふりかけ、手の中で丸める動作を何度も根気強く繰り返していきます。

友達と一緒に作りながら見せ合ったり、ひとりで黙々と作ったりしてやっとできた、固くてつるつるの泥だんごは大事な宝物です。

シャベルを使って、みんなで砂場の工事中です。

全身を使って、穴を掘ったり、掘った砂を集めて山を作ったりします。

「僕、ショベルカー！」と言って、三輪車で乗り入れて工事に参加する子どももいます。

泥だらけになりながら、思いきり遊んでいます。

胸に砂をつけた後、友達がおなかにも砂をつけてあげています。

友達と並んで足を埋めて、「足が消えたよ！」とおもしろがっています。

埋まった足は動きにくく、砂の中からはなかなか抜け出せません。

## 留意点

- ・ 子どもが砂を扱いやすいように、事前に砂をよく掘り返しておきます。また、砂が少なくなったら、たすようにしましょう。
- ・ 準備のとき、砂の中にとがった石やガラスの破片など危険なものや、動物の排泄物がないかを確認し、遊んでいるときにも注意を払うことが必要です。
- ・ 泥で汚れてもよい服装で活動します。服のそでやズボンの裾をめくったり、靴を脱いではだしになるように声をかけたりするほか、服がぬれたり汚れたりしたときのために、着替えも用意しておきましょう。
- ・ 手足や服が汚れることに抵抗のある子どもには、あとできれいに洗い流すので、汚しても心配ないことを伝えます。慣れるまでは無理をせず、砂場遊びに関心を持てるような話をしたり、まずは手で触らせたりして、砂や泥の感触を楽しめるように働きかけていきましょう。
- ・ 砂場の衛生を保つために、犬や猫が入らないように注意し、使用しないときはビニールシートやネットでおおっておきます。
- ・ 砂場は水場の近くに設置できるとよいでしょう。水くみもしやすく、衛生上からも、砂場遊びの後で手足や身体、衣服を洗うのにも便利です。また、子どもの爪をきれいに切っておくことも大切です。
- ・ スコップやバケツ、カップ、ふるいなどの遊具は、砂場近くの棚に並べたり、動かしやすいかごに入れたりします。子どもが利用しやすいように、置く場所も決めておくとよいでしょう。

## 活動の応用またはヒント

- ・ 準備のとき、平らのままの砂場だけでなく、時には子どもが作れないくらい高くて大きな山を作っておくと、普段とは異なる活動が見られることがあります。
- ・ 雨どいやパイプ(筒状のもの)を使うと、山を作ったり、ダムや水路を作ったりする遊びが、ダイナミックに展開します。また、木片やレンガ、石ころは、自動車やテーブルなどに見立てたり、ダムのしきりや補強に用いたりするなど、幅広く利用できます。
- ・ 草木の花や葉、木の実や枝は、砂のケーキやピザなどの飾りつけや皿に使えます。園内だけでなく、散歩などで園外へ出かけたときにも集めておくとよいでしょう。
- ・ 砂場では、身近な空容器ならどのようなものでも利用できます。切り口などとがった部分は危険のないようにしておくとよいでしょう。
- ・ 竹があれば、切断の仕方によって、スコップや皿、コップなどになります。その際、切断面でけがをしないように処理しておくことが必要です。

## 遊びにおける協力・相談

子どもたちが集団で生活する場では、子ども同士で協力しながら遊びを進めていく場面がたくさんあります。協力して遊ぶ場面で、子どもたちはいろいろな相談をします。例えば、ままごとをしようと思ったときに、誰がお母さん役になるか、赤ちゃん役になるかと相談したり、基地を作ることに決めるときには、どこを入口にするか、窓にするかを相談したりします。相談する過程で、自分とは異なる様々な意見があることに、子どもたちは気づきます。

また、意見の相違が明らかになった時、一緒に遊びを続けていくためには、意見を調整する必要が出てきます。子どもたちだけで意見を調整することが難しく、喧嘩になってしまったり、教師に援助を求めたりする場合があります。教師の介入は、子どもたちにとって、協力して遊ぶためのモデルになります。

友達と相談して協力しながら遊びを進めていくことで、ダイナミックで楽しい遊びが展開していきます。子どもたちは、楽しく遊べた経験を土台にして、協力して遊ぶためには、自分の意見ばかり主張するのではなく、友達の意見にも耳を傾けることが大切であることに気づいていきます。こうした活動の積み重ねが、人と関わる力を育てていくのです。

### 教育的意義

- ・ それぞれに考えていることを話し合いながら遊びを進める中で、自分の考えと友達の考えの違いに気づく。
- ・ 自分のやりたいことや考えていることを、どのように話したら相手にわかってもらえるかを考えていくことで、コミュニケーション能力が培われる。
- ・ 他者とのトラブルや葛藤を乗り越えていくことで、自分の考え方を変えたり、相手の意見を受け入れたりしていく力が育つ。
- ・ みんなで一緒に遊びに取り組むことで、遊びがよりダイナミックになり、楽しさが増すことを知る。
- ・ 友達と相談したり協力したりして遊びを進めていくことで、友達とのかかわりが深まり、仲間意識が育つ。

## 遊びのなかで協力・相談をする

天気がよいので、園庭にござを敷いて遊ぶことを思いつきました。

友達を誘って、教師からたくさんのござを借ります。

教師は、「何が始まるのかしら?」「とても楽しい遊びになりそうね」、と子ども遊びを応援します。

友達と一緒にござを敷きだしますが、大きくて上手くいきません。

教師も手助けをしてくれて、ようやく友達とござを敷くことができました。

でも、ござを敷いた場所が自分の考えと違ったため、そのことを友達や教師に伝えました。

もう一度皆で相談して、新たな場所へ、移動することにしました。

たくさん子どもたちが集まってきて、みんな楽しそうに遊びだしました。

積み木のところに集まってきて、「どんなお家にする？」と相談が始まりました。

山を登ったり降りたりして鬼ごっこをしていた子どもたちの一人が、橋を渡って逃げていきました。

橋の上での追いかげごっこは危険なので、一本橋のところで話し合いが始まりました。

話し合いや相談で、問題を解決していこうとする子どもたちの姿です。

お弁当の後に、みんなで遊ぶことになりました。

遊びに必要な遊具を決めて、教師に出してくれるように頼みに行きました。

みんなが口々に言うので、教師は何が必要なのか分かりません。

教師は、みんなで相談して決めたことを伝えるときには、誰かが代表で言うというよいことを助言しました。

## 留意点

- ・ 大勢の子どもたちで遊ぶ場面では、特に安全面の配慮が必要になります。勢いづいてぶつかった時に危ないものはないか、上から落ちてくるものがないかに気を配り、あまり狭い場所で遊んでいるようなら、場所を広げる工夫を教師が提案してみるのもよいでしょう。
- ・ 子どもたちの中には考えていることを表現するのが苦手な子どももいます。協力する場面や相談する場面では、そうした子どもたちの意見が無視されてしまうこともありますので、教師はそうした子どもたちについても配慮してあげましょう。
- ・ 相談や協力は、子どもの発達に合わせて、無理のないように保育に入れていきましょう。2、3人での相談や協力から始めて、だんだんと多人数にしていくとよいでしょう。
- ・ 皆で相談しているように見えても、実際には力関係によって、一人の意見で物事が決められていくこともあります。相談の仕方や中身、協力の進め方をきちんと抑えておきましょう。
- ・ グループやペアになって相談や協力しながら活動を進めるときは、それぞれの子どもの性格も考慮に入れて組み合わせを考えていきましょう。

## 活動の応用またはヒント

- ・ 人の話を聞いたり、自分の意見を言ったりする機会を、日常的に保育の中に取り入れることで、やがて、子どもたちだけで協力や相談活動ができるようになっていきます。
- ・ 子どもたちが相談して協力活動がうまくいったときに、教師はどのように進めてうまくいったかを他の子どもたちに伝えてあげましょう。そうすることで、他の子どもたちも次回の遊びに応用して行くことができるでしょう。
- ・ 子どもたちが協力して展開している活動を、全体に広めていくことで、運動会や生活発表会などの全体で行う活動に持っていくことができます。そうすることで、日常の子どもたちの遊びが行事と連続性を持ち、無理なく全体的な活動に取り組むことができます。